

WHOは全日本私立幼稚園連合会よりハイチの人々を助けるために

60万ドルの寛大な寄付をいただきました

WHOは全日本私立幼稚園連合会よりハイチの人々を助けるために60万ドルの寛大な寄付をいただきました。このお金はこの連合会の子どもたち、先生、家族から集められたものです。幼稚園に通う2歳から5歳程度の子供たちは、地震の被害を受け泣いているハイチの人々をテレビなどで見て、とても可愛そうと感じ、そうした



気持ちから寄付を行ったと話しています。2010年に発生したハイチの地震は、約22万人の命を奪い、30万人以上の人々に大きな怪我を引き起こしましたが、今回いただいた寄付は、こうした甚大な被害を受けているハイチの人々に対するWHOの人道的な活動に活用されました。

全日本私立幼稚園連合会は1984年に設立され約8,000の日本の私立幼稚園により構成されています。この連合会の目的は全ての私立幼稚園が協力することにより、幼い子どもたちの教育をより良いものにすることにあります。

実は、今回の全日本私立幼稚園連合会からのWHOへの寄付は最初のものではなく、2008年にも行われており、その際には、中国における地震及びミャンマーにおけるサイクロンによって被害を受けた子どもたちの健康を守るために活用されました。(日本語訳)